

研究情報の公開（オプトアウト）

研究実施機関：広島国際大学

試料・情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は、下記問合せ・相談等の連絡先までご連絡ください。提供を拒否されても不利益を被ることはありません。

研究課題名	呼吸サルコペニアを有する地域在住高齢者における関連する因子の探索的研究
研究実施予定期間	倫理委員会承認日～2026年3月31日
研究実施責任者	所属：リハビリテーション学科 職階：助教 氏名：梅原拓也
研究の目的・意義	<p>日本リハビリテーション栄養学会のワーキンググループは、呼吸器サルコペニアの診断基準を報告した（Sato et al 2023）。彼らは、呼吸性サルコペニアを「全身のサルコペニアと呼吸筋量の低下、それに続く呼吸筋力の低下および/または呼吸機能の低下」と定義した（Sato et al 2023）。「呼吸性代謝反射」（呼吸筋量減少と呼吸筋力低下が先に起こり、酸素運搬能力の低下や骨格筋疲労により運動耐容能が低下し、四肢の骨格筋の筋力低下）のメカニズムを考えると（Dempsey et al 2006）、呼吸サルコペニアは、四肢の筋肉量の減少や筋力の低下と関連する可能性が高い。</p> <p>呼吸サルコペニアの特徴は、介護が必要であり（Kera et al 2019）、吸気筋より呼気筋に関連すること（Sawaya et al 2022）、年齢が高く（Kera et al 2023）、BMI が低いこと（Kera et al 2023）や死亡率が高いこと（Kera et al 2023）が報告されている。しかし、これまでに呼吸サルコペニアを有するものの四肢の骨格筋障害の特徴については、明らかになっていない。四肢の骨格筋障害は、身体機能低下、生活の質の低下、死亡などの有害転帰の増加と関連するため（Spira et al 2015）、呼吸サルコペニア患者にとっても死亡率の上昇に関与する重要な指標であろう。</p> <p>よって、本研究の目的は、呼吸サルコペニアを有する地域在住高齢者において骨格筋を含めて関連する因子を探索的に調査することとする。これらを明らかにすることができれば、呼吸サルコペニアの特徴の同定やより効果的な治療法の確立につながると考えている。究極的には、呼吸サルコペニアを有する高齢者の有害事象を低下させるかもしれない。</p>
対象となる方（対象期間）	本研究の対象者は、65歳以上の健常高齢者とする。2023年10月に開催された黒瀬福祉まつりにおける測定会と2023年11月に開催された第33回東広島市生涯学習フェスティバルで測定を終えた者とする。
研究方法 使用する試料・情報の項目	方法：呼吸サルコペニアの有無による運動機能の比較と呼吸サルコペニアに関連する因子を明らかにする。 使用する情報の項目：呼吸サルコペニアの評価、サルコペニアの評価、ダイナペニアの評価、フレイルの評価、年齢、性別、body mass index、既往歴（心不全、冠動脈疾患、弁膜症、心筋症、高血圧症、糖尿病、脂質異常症、心房細

	動、慢性腎機能障害、脳卒中)、運動習慣、薬物療法の情報、骨量低下の評価、握力、5回椅子立ち上がり時間、筋肉量、筋厚、筋輝度、ECW/ICW比、phase angle、等尺性膝伸展筋力
試料・情報の管理責任者	所属：リハビリテーション学科 職階：講師 氏名：金口瑛典
個人情報の保護について	連結可能匿名化
問合せ・相談等の連絡先	連絡先担当者名：梅原拓也 電話番号：0823-70-4889 メールアドレス：t-umeha@hirokoku-u.ac.jp